

平成 26 年度 再評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	せんなん里海公園整備事業
担当部署	都市整備部都市計画室公園課公園整備グループ（連絡先 06-6944-9314）
事業箇所	・阪南市箱作 他 ・泉南郡岬町淡輪
再評価理由	事業採択後 10 年間を経過した時点で継続中
事業目的	せんなん里海公園は、阪南市・岬町にまたがる淡輪・箱作海岸と、その後背地を含んだ、泉州地域を代表する「海と人との新しいふれあいの場」として、また海と人が慣れ親しむことができる「里海」として、ビーチバレー競技場や、海辺の生き物、海浜植物などが観察できる人工磯浜などの整備を行い、すでに他事業で設置されているヨットハーバー・府立青少年海洋センターなどのマリンスポーツ施設と一体となることで、「海洋性レクリエーションの拠点」となる公園を目指すものである。 人工磯浜は、里海を象徴する親水空間である人工磯浜、施設の利用や管理運営の拠点施設等を整備することにより、海の自然が理解できる、魅力ある海辺空間の創造を図るものである。
事業内容	・都市計画決定面積 61.8ha ・開設面積 32.1ha(平成 26 年度末) ・未開設区域面積 29.7ha ・うち、新規事業認可取得面積 9.5ha (認可区域の主な整備予定施設) 人工磯浜、管理棟 (開設済区域の主要な施設) 児童遊戯場、海岸プロムナード、多目的広場、ビーチバレー競技場、ヨットハーバー、府立青少年海洋センター
事業費 ()内の数値は 計画時点(又は前回 評価時点)のもの	全体事業費：約 85.1 億円 [内訳]用地費 約 16.3 億円、工事費 約 68.8 億円 【工事費内訳：造成費 21.0 億円、建設費 47.8 億円】 (全体事業費 約 89.4 億円[内訳]用地費 約 16.3 億円 工事費 約 73.1 億円) 新規事業認可事業費：約 7.1 億円 [内訳]用地費 約 - 億円、工事費 約 7.1 億円 【工事費内訳：造成費 0.5 億円、建設費 6.6 億円】 (認可予定区域事業費 約 11.4 億円[内訳]用地費 約 - 億円 工事費 約 11.4 億円)
事業費の変更理由	・計画施設の再検討による減
維持管理費	約 84 百万円/年（平成 26 年度指定管理料、未開設地管理費用）

2 事業の必要性等に関する視点

	【事前評価時点 H17】	【再評価時点 H27】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	開設面積 29.2ha	開設面積 32.1ha ・ H18 指定管理者制度の導入 ・ 財政再建プログラム案(H20 ～H23)及びその後の財政構造 改革による事業費圧縮	・ 特になし

	【事前評価時点 H17】	【再評価時点 H27】	【変動要因の分析】
地元等の 協力体制等	○せんなん里海公園では、地域の住民を中心に「うみべの森を育てる会」や「ハーブタペストリー香の会」など現在 10 団体約 1300 人程の方々によって、樹林地の維持管理や花壇管理、小学校の総合学習のサポート、海岸清掃、自然観察会や環境学習、またビーチバレー等ビーチスポーツの普及活動など、さまざまなボランティア活動が行なわれている。 ○平成 15 年度からは、地域住民や学識者、地元有識者、ボランティア活動団体などの参加により、ワークショップ方式で、「海辺の生き物とのふれあい」を目的とした、人工磯浜の整備や管理手法について検討を進めている。	○地域の住民を中心としたさまざまなボランティア活動が年間約 1,500 人の方々によって行なわれている。平成 25 年 9 月からは新たにボランティアや地域住民を中心とした手づくりイベント「さくらフェス」等のイベントが追加され、入園者数の増加に繋がっている。 ○平成 25 年度からは、「せんなん里海公園人工磯浜他管理運営検討会」を立ち上げ、これまでの整備主体の検討から、実際の管理・運営に重点を置き、人工磯浜における海辺の生き物や海浜植物などのふれあいに向けた、活動・検討を進めている。	平成 18 年度に指定管理者制度を導入したことにより、指定管理者の発案により地域活性化を目的としたイベント等が積極的に実施された。
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	[効果項目] 直接利用価値 間接利用価値 [分析結果] ○事業全体 ・ B/C=4.37 B=665.8 億円 C=152.5 億円	[効果項目] 直接利用価値 間接利用価値 [分析結果] ○事業全体 ・ B/C=9.06 B=1,040.4 億円 C=114.8 億円 ○残事業 ・ B/C=1.58 B=3.42 億円 C=2.17 億円	・ 費用対効果分析手法マニュアルの改訂（平成 25 年 10 月）による算出式・パラメータの変更
	[算出方法] ・ 直接利用効果 健康・心理的な潤い・レクリエーション空間の提供 ・ 間接利用効果 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保 [受益者] 公園利用者、周辺住民 ※改訂 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（H16.2 発行、国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修）	[算出方法] ・ 直接利用効果 健康・心理的な潤い・レクリエーション空間の提供 ・ 間接利用効果 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保 [受益者] 公園利用者、周辺住民 ※改訂第 3 版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（H25.10 発行、国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修）	

事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	[効果項目] 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保 [受益者] 公園利用者、周辺住民	[効果項目] 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保 [受益者] 公園利用者、周辺住民	特になし
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	①平成 18 年度 ②平成 19 年度 ③平成 22 年度	①平成 18 年度 ②平成 19 年度 ③平成 28 年度	財政再建プログラム(案) による公共事業費削減
<進捗状況>	・全体 83.3% (74.5 億円／89.4 億円) ・用地 93.9% (15.3 億円／16.3 億円) ・工事 81.0% (59.2 億円／73.1 億円)	・全体 98.1% (83.5 億円／85.1 億円) ・用地 100.0% (16.3 億円／16.3 億円) ・工事 97.7% (67.2 億円／68.8 億円)	
事業の必要性等に関する視点における判定(案)	<p>・自然環境を保全・創出することで、大気浄化や地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和など、都市環境の改善が図られ、都市生活者にとって安全・安心につながる。</p> <p>・潮風、磯の香り、潮騒など様々な海辺の自然を五感で感じ取り、海辺の生き物や海浜植物などの生き物とふれあうことで、精神的にリフレッシュできる。</p> <p>・大阪府において唯一、豊かな自然環境が保全、復元された、広大で貴重な海辺空間で、マリンスポーツや海辺での生き物とのふれあい、磯遊びやバーベキューなど、様々な形で海辺の自然にふれあえるレクリエーションの場となる。</p> <p>以上のことから、必要性については変化がないことから、継続する。</p>		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点における判定(案)	・平成 18 年度には、用地買収は既に完了した。また、平成 26 年度には人工磯浜の海側の整備がほぼ完了し、陸地側事業区域を残すのみとなっており、目標とする平成 28 年度の事業範囲の概成は可能と思われる。
-----------------------	---

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点における判定(案)	<p>[コスト縮減]</p> <p>・管理施設は、当初予定していた「里と海の交流館」の機能を見直すことにより、規模の縮小を図り、コスト縮減を実施した。</p> <p>[代替案立案]</p> <p>・大阪府において唯一、豊かな自然環境が保全・復元された、広大で貴重な海辺空間であり、海辺での生き物とのふれあい、ビーチスポーツ、磯遊びやバーベキューなど、様々な形で海辺の自然にふれあえるレクリエーションの場は他にないことから、代替案立案の余地はない。</p>
------------------------------	---

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<p>当公園は、海岸線に沿って形成された豊かな自然樹林帯が残り、固有の生物が生息する貴重な海岸環境となっているので、この環境を守り育てていくことが重要である。</p> <p>また、人工磯浜は当公園を象徴する空間となるよう、海辺の親水空間として整備し、府民が海の自然を理解し、海に引きつけられる空間に創造することを目指すものである。整備時には、自然環境への影響をできる限り低減させ、海辺の生き物や海浜植物、野鳥の生息場等として、以下のような考え方で整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の生物の生息に配慮した環境づくり ・海辺の多様な自然や風景づくりを目指した整備 ・海辺の自然と人間の係わりをテーマとして、子どもから高齢者まで府民誰もが気軽にその海辺の自然の姿や歴史を理解し、体感することで楽しめる親水空間の整備
前回評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応	—
その他	<p>【上位計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府公園基本構想(H5) ・大阪府都市整備中期計画(案)(H24) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年海洋活動施設事業 ・海岸環境整備事業

6 評価結果

評価結果	<p>○事業継続</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業地は、大阪府内にあって海の動植物とふれあえる自然豊かで希少なオープンスペースであり、生物多様性の保全・育成としての必要性については変化がなく、早期に未整備区域を整備する必要がある。 <p>以上のことから、事業を継続する。</p>
------	---